

様式 1

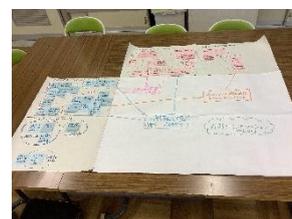
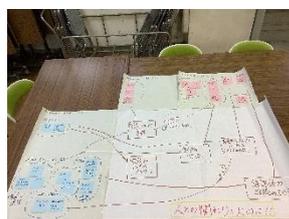
令和5年度「業務改善『夢』コーディネーター」取組状況報告書

三島市立中郷小学校

【校務の分類・整理と見直し】

1 取組内容

- (1) 本校の教員・子ども・保護者・地域における強み・弱みを職員全員でクロス SWTO 分析し、来年度大切にしたいことを焦点化。それを根拠に行事、活動、研修、会議等を精選・見直しする。



- (2) 次年度に向けて、学校規模に向けた校務分掌の統廃合の検討。
生徒指導部・特活指導部・健康安全指導部・学習指導部・研修部
→生徒指導部・特活指導部・健康安全指導部・学力向上部

- (3) 保護者への連絡の ICT 化。

- ・健康観察アプリ（リーバー）の活用→保護者から欠席連絡
水泳や持久走の参加確認
学級閉鎖等の連絡
- ・Teams の活用→ 週予定の連絡
学級だよりの配布
欠席児童への授業黒板の写真を掲載



授業の板書を伝えることで、休んだ子が安心して学校に来ることが出来る。

作品のきれいな色が保護者にも伝わった。
紙やカラー印刷の費用もかからず、タブレット一つでお便りができる。



2 取組の成果

(1)

クロス SWTO 分析を利用することで、自然と立ち上がって話し合う姿が見られた。保健室から、事務から、給食からと様々な立場から意見を聞くことが出来た。行事の削減や内容の見直しにおいて、判断する根拠が明確になった。来年度の研修にも繋がる意見がたくさん出た。職員同士の情報共有が大切であることを再確認し、週の打合せは1回と減らすが、年度初めや、主任会など、必要な時には、会議の時間をしっかりとることになった。

(2)

クラス数の減少により、教員数も減ったため、各指導部に年齢層がバランス良い配置が難しかった。そのため、指導部の仕事内容を見直し、指導部の数の削減を検討できた事は、校務分掌と業務改善を自分事として考えるきっかけとなった。

(3)

・リーバーの利用で朝の電話対応が減り、担任は安心して教室で子どもと向き合うことができている。タブレットで誰もが確認できるため、連絡がない家庭には、担任外が連絡を入れている。記録がタブレットに残ることで、出席管理も便利である。インフルエンザの登校確認の時にも、リーバーに2回体温を入れてもらうことで、書類なく確認が出来ている。

・Teams の活用により、放課後、子どもたちに視覚的に連絡をすることが可能になった。お便りもカラーで見せることが出来る。学校評価のアンケートも Teams に Forms のリンクをはり回答してもらった。紙の削減、集計の時間削減になった。毎月の学年だよりは、保護者からの希望で、紙配布に戻った。

3 取組の課題

・常に PDCA サイクルを行いながら、教員一人一人が自分事として、よりよい教育課程や分掌などを考えていくことが大切である。

・必要なことと必要ないことの共通理解のために、その根本から話し合えた事は大変良かった。今年だけでなく続けていくことも必要である。

・リーバー、連絡メール、Teams、ブログ等、連絡手段が多いので、それぞれの良さを上手に利用して、使っていく必要がある。また、それぞれの使い方等職員間の共通理解が必要である。